

小論文

慶應義塾大学 法学部 1/2

＜総括＞

試験時間	60 分	総解答字数	800 字
------	------	-------	-------

防犯カメラをめぐる個人の自由と安全の相克という例年と同様の法学部の学部系統的なテーマであった。要約問題は昨年と同様課されておらず、800字以内で意見論述を行うことが求められた。「個人情報保護法」の改定や「スパイ防止法」の制定をめぐる議論を意識した出題であると言える。

昨年度は2024年度と比べても大きな変化があった上に、ローマ法大全という受験生にはあまりなじみがないであろう著作からの短い3つの引用があるだけだったので、受験生は大いに戸惑つただろう。課題文が短くなつたため、課題文を手掛かりとして、論述を行うことが難しくなつた。法と正義に関する（初步的な）理解も問われる問題となっており、準備をしていない受験生は歯が立たなかつただろう。

本年度の問題は昨年度に比べれば、親切に説明してくれており、受験生から見て論述の手がかりとなる情報が十分ある問題文である。また、テーマ的にも過去にも出題されたことがある自由と安全の相克であった。加えて、課題文の議論に参加することを求める形式は一昨年と類似したものであった。それゆえ、本年度の問題は小論文の学習をきちんと行なつてきた受験生からすれば比較的取り組みやすかつたのではないだろうか。

大学は、受験生の答案の出来不出来を見ながら、出題形式や難度を模索中であると思われる所以、来年度以降も今年や昨年、一昨年と類似の問題が出題されるのは不透明なところもある。

河合塾の社会科学系小論文の授業では、基礎シリーズから、法と政治をはじめ近代社会の基本原理や時事問題についてしっかりと学んだうえで、完成シリーズを通して繰り返し論理的に記述を行うトレーニングを行つてゐる。本年度の問題は、2025年のテキストで扱つてゐるテーマ（監視社会とテクノロジー）である。したがつて、河合塾で小論文のレギュラー授業を受講していた生徒にとっては、十分な対応ができたであろう。

＜課題文の分析＞

大問番号	
内容（主題）	自由と安全
出典（作者）	オリジナル
長短・難易等 前年比較	長短（短い・やや短い・変化なし・やや長い・長い） 難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント（設問内容・論述ポイントなど）
	課題文	学部系統的		論述	800字以内	討論の参加者の1人として、意見1および意見2を踏まえ、より自由で安全な社会のあり方について、自分自身の考えを800字以内で述べなさい。なお結論は問わない。

※出題形式は「テーマ・課題文（英文を含む場合は付記する）・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

＜答案作成上のポイント・学習対策等＞

防犯カメラの設置を促進し、市民の自由と安心を保障すべきであるという意見1の立場と監視社会の危険を危惧し、自由を損なうものであるとみなす意見2の立場を踏まえて自分の議論を展開することが求められている。安全は自由の前提となるということと、自由と安全の間に緊張関係が存在していることについて丁寧に考察する必要がある。

本年度の問題は、意見1と意見2のどちらの意見にもやや極端なところがあるので、どちらかの立場に完全に依拠するよりも、うまくバランスを取りながら自分の意見を組み立てると良いだろう（どうバランスをとればよいのかは解答例参照）。どちらかの議論に依拠するにしても留保をする必要があるだろう。

例えば、意見1については防犯カメラが増えることによって困るのは悪い奴だけであるといった意見には乗らないようにしたい。インターネット上などでよく見られる、人権を無視した、防犯カメラに関する意見を鵜呑みにしているような受験生にとってはトラップとなったかもしれない。

一方で、意見2については肖像権やプライバシー権以外に、個人情報の自己コントロール権が保障されていない社会の危うさに対する問題意識はしっかりと共有する必要があるものの、防犯カメラの持つ一定の意義を認めない考え方などについては検討すべき余地がある。また、エビデンスがないとはいえ、安心を求める市民の意見を全く無視することも難しい。それゆえ、犯罪予防や捜査、市民の安心のために必要なカメラ設置を認めるとしても、そこにどのような法制度の歯止めをかけていくのかということが重要な論点になるだろう。

学習対策は以下の通り。

- ① 欧米近代の基本的社会原理（人権、社会契約説、法の支配、立憲主義、民主主義など）の理解を深める。
- ② 法学や政治学の入門書を読む。
- ③ 現代社会が直面する法的・政治的問題に対して関心を持ち、（①の社会原理に基づいて）考察し、自分の見解を言語化する習慣をつける。
- ④ 多くの過去問を解き、適切な評価をしてもらい、書き直す。そして、今回の自由と安全、監視社会のように、過去に出題されている法・政治学的なテーマについては理解を深めておく。